

合同教育研究会議（３月８日開催）議事概要

1 開催日時

平成 18 年 3 月 8 日（水）13：00～14：10

2 場所

本部棟特別会議室

3 出席者

谷口学長、沼田副学長、太田原副学長、細江教育・学生支援本部長、船生研究・地域連携本部長、坪山学部長、佐藤学部長、曾我学部長、古川学部長、高橋短期大学部長、千葉学科長、菅田学科長、植田学科長、宮腰英一委員

（事務局）

遠藤総務財務室長、吉岡参事兼教育・学生支援室長、佐々木研究・地域連携室長、久保宮古短期大学部事務局長、小友主幹、立花主事

4 会議の概要

- 会議資料は別添のとおり
- 学長あいさつ

本学は全体予算の 72%を占める県からの運営費交付金で運営されているが、中期目標期間中毎年カットされていく方針である。我々としては教育のレベルは下げたくないが、人件費にもしわ寄せがでそうな状況である。教員もさる事ながら、答案を採点して学生にも優秀な者がいることを感じ、非常に心強い。JABEE の審査の際にも本学は謙虚すぎるとの言葉があった。このグローバル化時代には積極的に意見を述べてほしいし、そういう教育をしていきたい。

【議 事】

（１）公立大学法人岩手県立大学平成 18 年度計画(案)について

- 沼田副学長より資料に基づき説明があり、下記のとおり意見交換された後、了承された。

<主な意見>

- 委員は学部の評価委員長をされているということなので、そのあたりの話をお聞かせ願いたい。
- 本学では平成 19 年度に認証評価を受審する予定であり、今年度から準備を始めている。組織としては副学長を室長とする評価分析室があり、評価に詳しい 10 名程度が分析室から選ばれ中心となって活動している。本学では高いレベルを設定して評価に臨もうという姿勢で取り組んでいる。平成 17 年 7 月に各部局の担当者に説明会を行い、9 月までに教育部分、11 月までに研究部分、地域貢献部分の自己点検報告書を作成するというスケジュールであった。さらに今年 1 月に提出した報告書に対して質問書を分析室が作成し、それを基に総長、理事、分析室の委員によるヒアリングがなされ、各部局 5 名ずつで対応した。各部局は改めて文書による回答も行った後、それにあわせて報告書を修正するという作業を現在行っている。評価は平成 16 年度の活動がベースになって行われた。各部局から集まった最終報告書は白書としてまとめ、6 月までに大学の活動として公表することとしている。

経験的なところで話すと、認証評価は証拠に基づくことが求められている。点検の結果、慣習としてやってきたことに証拠がないものが多いことがわかったので、そこについては 18 年度で揃えるこ

ととしている。17 年度中に改善する予定だった部分でも 1 年のサイクルは早く、できない部分もありそうである。貴学の場合も来年度、前期で改善できそうなことは変えて後期に実施してみる、あるいはできるだけ 18 年度中に規定等を整備し、19 年度に実施してから 20 年度の評価に臨む。こういうペースで行かなければ認証評価は難しいのではないか。4 月からは資料を整えることを意識されたほうが良い。また、個々の教員のデータも必要になる。本学の場合は、詳細なデータベースがあり、教員が自分で入力することになっている。更新さえしっかりされていれば、こういうものがあれば、逐一提出を求めなくて済むのではないか。教員のデータはお願いしてもなかなか集まりにくいものなので、データベースを構築されて、基礎データを蓄積していくことが非常に重要である。

- データも含めて、きちんとしたスケジュールのもとで行わないと間に合わない。委員の所属大学のように多くのスタッフを抱えていてもそうだとことがわかった。大変参考になった。我々も事務量は増えると思うが、データを集めてしっかり固めていかなければならない。
 - 研究者個人のデータベース化はやりやすいと思うが、組織の活動の部分は難しいので、委員会の活動などは記録を残しておかなければならないと思うが、どういう風にされているのか。
 - 会議の記録はきちんと取っておいたほうがいい。また、小さなことでも後々大きな証拠になる。例えばオフィスアワーにしても、学生と教員双方で了解した形で面談の記録を残しておけば、実績として提出できる。
 - 宮腰先生の経験は我々のものと合致している。JABEE でもエビデンスが求められるが、ゼミや卒研のエビデンスは揃いにくい。JABEE の基準のほうが厳しいようなので、ソフトは JABEE レベルで対応することとしている。また、教員の意識を揃えることに一番苦労した。
- (2) アイーナキャンパスの開設について
- 船生本部長から資料に基づき説明があり、下記のとおり意見交換された後、了承された。
 - 公開講座の受講料について、ソフトしか金額が入っていないが、ほかのところはどうするのか。また、本学部の分については、中学生以下の親子を対象にしたいと考えている。
 - 受講料も本当は取りたいが、岩手の状況を考えて模索中である。
 - アイーナは 5 大学と連携などもしながら活用したいし、他県からも参加してもらえるように考えている。

以上